

9月6日に、野田小学校のK先生が、野田中学校に研修にきてくれた。福島市が今年度から始めた「異校種1日研修」のためである。1学期には、野田中学校の先生が、野田小学校で1日お世話になっている。

以前、K先生の授業を参観したことがあった。野田小学校が、読解力向上、すなわちリーディングスキルに取り組み始めたときである。社会科の授業だった。いい先生だと思った。子どもたちへの愛を感じた。その後も、年に2度ほど、小中接続事業でお世話になることがあり、協議の場でのK先生の様子を見てきていた。意欲があり、勉強もしている青年だと感じた。

異校種1日研修では、校長講話の時間が1コマある。K先生といろいろなことを話した。いつの間にか、こちらが勉強になっていた。彼のために資料を用意した。言葉のプレゼントである。

天ぷらを揚げるには、40℃の油に何時間つけてもくったりするだけでしょ。ところが、170℃にすると、3分かそこらで一気にからっと揚がる。そこまで到達するエネルギー、熱意を出さない限り、いつまでもたっても天ぷらは揚がらない。

K先生に、もうすでに天ぷらを揚げたのかと聞いてみた。すなわち、授業のフルモデルチェンジは終わっているのかということである。話を聞くと、教職8年目のときに、勉強したいと考え大学院に行ったとのことだった。そのときの担当の先生が、どうやら“あたり”だったらしく、嫌になるくらい指導されたようだった。すでに貴重な経験をしていた。

他にも、以下の言葉を贈った。

鉛筆のような人になりなさい 真ん中にまっすぐ芯（心）があって、周りに木（気）が付くひとになりなさい

むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに

人は誰と出会うかによって、しかも、そのときに誠意ある対応をしたかどうかによって、人生の舞台が用意されていく

人を支える仕事が評価されれば、人の上に立つことを要請され、周囲が地位を用意する。どれだけ人の役に立つことができるか。そこに生きる意義がある。

あなた方は教師という仕事を選んだのではない。教師という人生を選んだのだ。

人生の長期予報はあたりません

人生の扉は他人が開く

どんな研修でもそうだが、研修直後は、その余韻もあり効果が上がるかもしれない。しかし、何かしらのアクションを起こさない限り、月日の経過とともに、研修の効果は薄らいでいく。あの異校種研修から、今日で2か月である。K先生は、どんなことを考えながら、今日も子どもたちの前に立っているのだろうか。K先生ならば、研修で学び考えたことを生かしてくれているように思う。